

どんびま

2013年9月4日発行
発行者 椛の湖農業小学校

ながつき

長月(ながつき)は陰暦の9月の異名である。夜長月の意味だとも、稲刈り月が変化したとも言われている。

昔から、9月の十五夜(陰暦8月15日)の月を仲秋の名月と呼んで愛でてきた。縁側に萩・薄を生けて、団子・栗・里芋などを供えて、虫の声を聞きながら、しばし自然の中に身を置く行事である。

秋分の日はお彼岸の中日でもある。祖父母の代までは、おはぎを大量に作って、重箱に詰め、分家や親戚を回って御霊屋・仏壇に供えて彼岸参りをしたものだ。今は行き来する親戚も代わり、おはぎも作らなくなったが、縁につながる人びとと歴史を想う日に変わりはない。

田んぼの稲はずいぶん色づいて穂を垂れて、アキアカネの数も増えてきた。(草)



9月授業日案内

- 日程 9月15日(日)
- 受付 8:30~9:00
- はじめの会 9:00~9:15
- 授業 9:15~12:00
(栗拾い・畑仕事)
- 栗拾いには袋を2枚以上お持ち下さい。**
- 栗は有料です。時価で精算して頂きます。**
- 昼食 12:00~13:00
(松茸ご飯、お吸い物ほか)
- 授業 13:00~15:00
(稲刈り・バケツ稲品評会)
- 終りの会 15:00~15:30

- 持ち物 手袋、タオル、雨具、
着替え 買い物袋 食器、箸
- ☆バケツ稲を持参してください。
品評会をしますので、必ずお持ち下さい。
**バケツごと持ってこられない方は、刈って
稲束にしてお持ち下さい。**

- 締め切り 9月10日(厳守)

- 問い合わせ・緊急連絡
TEL0573-75-4417
090-5110-9362(山内總太郎)

～とくちゃんの農小レポート～

楽しい楽しい農小キャンプ

一年の内で最も楽しみな行事は、なんと言っても一泊二日のキャンプでしょう。初日は久しぶりに雨の心配が無く存分に楽しむ事ができました。翌日は予報どおり雨でした。

- 1 24日午前の授業。** 南瓜の収穫と白菜の種まき。今年のかぼちゃは今までに無いほどの豊作となりました。昔ながらの棚つくりが良かったのかもかもしれません。白菜は小さなポットに2粒ずつ、各グループ毎に蒔きました。この後はあぼ兄が持ち帰って苗に育て、来月畑に植え付けます。
- 2 第二回カブトムシ運動会。** 先月成虫に間に合わなかった生徒が持ち寄り、14選手がトーナメントで戦いました。成績は次の通りです。
1位5G小沢、2位2G小池、3位3G前澤、4位2G政金、5位4G河合、1G八木、4G幸繁
- 3 移動。** 午前中に椀の湖オートキャンプ場に移動しました。
- 4 昼食。** 弁当（おにぎり、茹で卵、漬物、トマト、ナスの漬物、キュウリの漬物）
キャンプ場で弁当が配られ、思いおもいの場所でそれぞれに楽しいひと時を過ごしました。
- 5 鱒つかみ大会。** 今回は川上川が増水のため、川遊びが出来ませんでした。キャンプ場にあるミニプールを借りて鱒つかみ大会が行われましたが、魚の手掴みは中々難しかったようでした。塩焼きにするための腹だしにも挑戦しました。「命をいただく授業」でした。
- 6 オートキャンプ場チェックイン。** 例年、この日は農小キャンプがほぼ貸し切り状態で利用させてもらっています。テントの設営や宿泊の準備に取り掛かりました。
- 7 夜店の準備。** 16:30分より、豚の丸焼き、から揚げ、フライドポテト、いか焼き、フランクフルト、焼きとり、鱒の塩焼き、焼きおにぎり、焼きそば、野菜サラダ、フルーツポンチ、冷奴、胡瓜の漬物、などなど夫々のグループが担当で調理された、盛り沢山の料理が用意されました。
- 8 夜店開店。** 17:00分開店と同時に、安江シェフ担当の丸焼きの前には行列が出来ていました。雨の心配がなく心行くまで料理が堪能できたことでしょう。大人の人たちには生ビール（有料）もあり時間と共に大変盛り上がっていました。
- 9 キャンプファイヤー点火。** 西の空が夕焼けとなり辺りが暗くなってきた頃、G長と6年生により火の長（早川隆良先生）を先頭に松明行列が進み、火の長による「火の神のこぼし」を授かったのち、一斉に点火され赤々と炎が立ち上がりました。ちなみに此のファイヤーの基はアボ兄が思いを込めたこだわりのもので、毎年製作に熱中している姿がとても頼もしい。
- 10 キャンプファイヤー。** 火の周りを囲みながら、山内スタッフのリードのもと幾つかのゲームを楽しみ、その後は各グループ毎の出し物に移りました。4Gの増やし鬼ゲーム、5Gのスリーヒントゲーム、1Gの宝さがし、3Gのクイズと各グループが趣向を凝らした出し物で盛り上がりました。
- 11 飛び入り。** ゲームが一段落したところで、先生方の熱案により盆踊り「木曾節」が飛び出し、原多喜彦先生のリードのもと生徒、父兄、スタッフ共々大きな輪になって盛大に踊りました。このような事件(?)は今まで一度も無く、やはり20周年の記念に相応しい出来事でした。
- 12 肝試し。** グループ担当の出し物の最後は2G担当の肝試しでした。1人又は2人までがペンライトのみで山の中のコースを一巡しますが、時に悲鳴が上がったり泣き声が聞こえてきたり、これには蒟蒻が活躍したとかで担当グループはさぞ満足したでしょう。毎年担当グループの希望が多くて、今年はジャンケンで決まったようです。賑やかな内にキャンプ前日の日程は無事終了しました。
- 13 入浴。** 午後10時まではキャンプ場のお風呂が利用出来ました。

14 朝食。 キャンプ場で朝食（パン、ミニトマト、農小手作りハム・トマトジュース、牛乳など）を済ませ、後片付けをしたのち農小に移動しました。

15 25日午前の授業。 物作り教室。各自が事前に申し込んだ課題に挑戦しました。

*木工、*竹細工、*布草履、*染物、*紙すき。先生方のアドバイスを受けて夫々が作品作りに励みました。これで夏休みの宿題が完成したことでしょう。

染物、布草履、紙すきなどは、事前の準備工程があったのが良く解らず、当日になってからの下準備に時間を要した事もあったようで、通信どんびきを良く読んで解らない事は事前に聞いてから参加して頂くと能率が上がると思います。

尚、11月の卒業式には「作品展」を行いますので、作った作品を是非出展して下さい。

16 昼食。 毎年人気の流しソーメンです。真竹を割って樋をつくり、二列にして水と共にソーメンを流しますが、なかなか挟み取れなくて苦労していたようです。250人分のソーメンがあつと云う間に無くなり、スタッフの中には充分食べられなかった人もあったとか。でも樋から落ちている物が沢山あったのは食育上問題かと・・・

17 案山子立て。 今年は田んぼの場所が変わり、案山子を立てるスペースが足りないのので、農小の畑に立てる事になり、各自に持ち込んで立てかけました。椀の湖の「そば祭り」が9月末に行われますので、それまで残して大勢のお客さんに見てもらおう事になりました。今までは田んぼの稲穂と案山子の取り合わせで、多くのカメラマンの注目を集めてきましたが、今年は畑の白いソバの花をバックに、案山子はどんな姿を見せるのかとても楽しみです。この案山子には人気投票があります。一家族2票と先生、スタッフは1票の投票権があり、投票の結果上位入賞者には11月に表彰があります。

18 終わりの会。 午後一時には終わりの会を行いました、その時間まで雨に恵まれ？ました。

8月のカブトムシ運動会の表彰があり、ミニトマトが賞品となりました。

小林スタッフから6年生と5年生に、「知恵の輪木組」が二種類プレゼントされましたが、これは宿題といたしますので来月完成品を見せてください。

19 持ち帰り。 大豊作のかぼちゃ。24日に配られました。

有機栽培の南瓜はとても美味しいので、色々な料理に使って味を楽しんでくださいネ！！

煮物、揚げ物、スープ、餃子、と多彩なメニューが目につかびます。是非挑戦を！！

～とくちゃんのちょっと一言～

今年も物作りは竹細工を担当しましたが、特に人気の高いのは「竹とんぼ」でした。でもナイフを持たないで来た生徒がおり、5丁ほど用意していた「切り出し」がまだ3人分足りませんでした。通信の「どんびき」に持ち物の説明がありますので、良く読んでから参加してください。日本人に欠けているものの一つが発想能力だと云われています。創意工夫の能力はそこそこ有るように思いますが・・・これからの日本経済を支えるものは、資源の無い国の生きる道として、どうしても発想の重要性が指摘されています。子供は遊びの中で、知恵を育み大きな発見と感動を体験してゆきます。今や遊びの道具は既製品が主となっています。これでは発想・創意工夫の芽は育ち難いように思います。そうした中で椀の湖農業小学校では、物作りの時間を大切にしております。どんな物でも自分で作った作品には思い入れがあり、大切に出来るのではないのでしょうか。自分の玩具は自分でつくる、そんな時代に育った者には、今の環境が羨ましいやら一寸寂しいやらの感があります。今回物作りの竹細工の中で、一番単純な作品「竹ぽっくり」に大人気があったのは、さてどのように理解したらよいのでしょうか？

今年も休校中（12・1・2月）に物作り教室を予定していますのでご期待ください。

～あぼ兄の百姓ぼなし～

たがやし ひとなる 20年を振り返って(2)

‘60年代の終わり、フォークソングが若い人たちに広がりつつある中で、下手でもいい、自分たちが楽しめる、野外で夜通し演奏し合う音楽イベントが出来ないかと話が始まって、1969年夏、椀の湖畔で催した「全日本フォークジャンボリー」は日本初の本格的な野外音楽会であった。「東京だけが文化じゃない、地方から情報発信しよう」と、田舎の若者たちが手づくりで始めたイベントは大きな反響を呼び、回を重ねるごとに参加者が増えていった。第1回は2500人が、大阪万博の1970年第2回は8000人に、1971年第3回には坂下町の人口6000人の2倍とも3倍とも言われる数に膨れ上がって行く中で、音楽業界やマスコミの作り上げる商業化の流れが強まり、我々の思いとは違った、手に余るものになってしまい、世のフォークソングブームを他所眼に、3回で終わった。

終わった後、これだけの人を集めた実績があるなら何かが出来そうだと、町役場などが中心になって第3セクター設立を視野に、いくつかの計画案が持ち上がった。その中で我々の提案した、もの作りを中心にした「歌と陶芸とクラフト」の計画がほぼ決まりかけたが、多額な予算が必要とされてたち消えた。その施設と合わせて計画にあった「子どもの遊びの国」は、野外で遊ばなくなった子どもたちが野山で走り回ったり、木登りをしたり、川や田でメダカや小動物とふれあう計画であった。

「こどもの遊びの国」だけならやれないうちかと思いついて、20年の時が流れた。

1991年の冬のある日、フォークジャンボリーに参加した仲間から「農業小学校のうた」という絵本を受け取った。児童文学者の今西祐之先生が1987年神奈川県藤野町で、地元の人びとと開校した「菅井農業小学校」の様子を描いたものだった。一目見て胸の中で燃え上がるものがあった。

我々がやるなら、場所はなんと言っても椀の湖。椀の湖ふれあい村の支配人だった故古井実君はフォークソングの仲間で、気心は知れていたが、ある夜その話をしに出掛けたものの「そんなことはできない」と言われてしまえば終わりになってしまうと、話しだせないまま帰った。その年の4月、あぼ兄の近くの飲み屋に古井君から呼び出されて「あぼ兄はタマネギを作っているだけの人生ではないよな？」と言われた時は、内心「しめた！」と思った。

いろいろ考えた夏が過ぎ、11月、菅井農小の卒業式だと聞いて、古井君を有無を言わせず同行させて藤野町へ向かった。どんな設備の整った学校かと思っていたが、なんと小高い所に吹き流しののぼりと小さな小屋があるだけだった。卒業式は草原の斜面に集まって、校長の今西先生が子どもたちに卒業証書などを手渡されていた。その中に特別賞として「一輪車を上手に運転できたで賞」もあった。

帰って来てからは急に忙しくなった。まず、仲間8人と地主さん2人で10人の発起人会ができた。さてどんな内容の学校にしようかと考えた。「農業小学校のうた」は理念は共感できても、ノウハウの教科書ではもちろんなかった。農業をやってきた者として何が出来るか？都会の子どもたちに何を伝えたいか？などを集まって話し合ううちに、昼食には季節の郷土料理を出そうなどと方向が決まってきた。「たがやし ひとなる」の合言葉を生み出すにはかなりの時間がかかった。


一方では、現地で荒れた桑園の抜根・整地作業を進め、近隣の町内会などに挨拶にも回った。

最初の募集は、お世話になっていた新聞社の紹介で毎月行っている市役所の共同記者会見に4名で出向いた。ある記者の「大変良い計画だが、怪我でもさせたらどうするのか？」という質問にドキッとした。そこまで気が回っていなかったことを反省し、一層気を引き締めて開校をめざすことになった。

1994年3月、102名の生徒さんを迎えて「たがやし ひとなる 椀の湖農業小学校」は開校した。

かなちゃんの虫日記～

とつぜんですが、おこめクイズです。

ごはんおちゃん 1 は、いはい、イネ何株でしょう？ 

① 3株 ② 30株 ③ 300株

こたえの前まえに、イネがりの時ときに 田んぼたんぼで 出くわしそうな 生きものいきもの の 紹介しょうかい です！

あるい虫あるいむし

イネをたべる。

カメシかめしの なかま 

イナゴいなごの なかま 

いい虫いいむし

虫をたべる。

アキアカネあきあかね など  トホとほ

カマキリ 

クモくもの なかま 

ただただの虫のむし




イネも虫もたべない。

トビムシとびむしの なかま 

ユスリカゆすりかの なかま 

イネをたべるあるい虫あるいむしがいるけれど、それをたべるいい虫いいむしもいる。
 ただただの虫のむし (はいい虫いいむしの エサになる。いろいろな虫むしがくらしています。
 みんな 田んぼたんぼがないと 生きていけません！！

クイズのこたえは ① 3株かぶ です。(3000～4000かぶ米こめのお米)

   ごはん3杯はい分の 田んぼたんぼ (1株かぶ9株)で アキアカネ | ひき育そだつ
 そうです。ごはんをたくさん 食べて、 田んぼたんぼが たくさん 使つかわれるように
 して、生きものいきもののすみかを 減へらさないようにしましょうね!!!